

相手とボールを奪い合うフォワード(8人)と、フォワードが奪ったボールを相手のインゴールまで運ぶバックス(7人)があるが、その中でもそれぞれに役割がある。

LESSON 4
選手一人ひとりの役割が異なる



forward

プロップ ①③

(胴回り・首が太く力持ち)
最前列でスクラムを組み、ラインアウトではボールを獲得するジャンパーを支える



フッカー ②

(リーダータイプ)
最前列の中央でスクラムを組んで制御し、ラインアウトのスローインもする



ロック ④⑤

(働き者)
背の高さを生かしボールをキャッチし、大きな体で力強く突進する



フランカー ⑥⑦

(チャレンジ精神旺盛)
素早く密集に駆け付け、タックルでもチームの先頭に立つ



ナンバーエイト ⑧

(チームリーダー)
フォワード全員を束ね、スクラムの最後尾で指示を出しながら幅広く活躍する



backs

スクラムハーフ ⑨

(ムードメーカー)
フォワードが獲得したボールを素早くバックスに供給する



スタンドオフ ⑩

(駆け引き上手・司令塔)
グラウンドの隅々に目を光らせ、どう攻めて守るかを考える



センター ⑫⑬

(勇気と精神力がある)
突破力と激しいタックルで、バックスの真ん中で攻守の中心になる



ウイング ⑪⑭

(トライゲッター)
足が速く、みんながつかないボールを受け、トライに向けて突っ走る



フルバック ⑮

(冷静沈着)
最後尾で戦況を見て分析的、確かなアドバイスを送りつつ最後の砦となる



LESSON 1
思いやりで溢れるスポーツ

ラグビーは接触プレーの激しいスポーツ。体をぶつけあい、熱くなる場面も多いため、お互いに思いやりを持つことが重要だ。肩より上へのタックルなど危険なプレーは厳重に禁止されている。『ノーサイド精神』『One for All, All for One』という言葉があるように、フェアプレーの精神が強いスポーツなのだ。

ノーサイド精神

試合以外では敵も味方もないという、相手に敬意を払う精神

One for All, All for One

一人はみんなのために、みんなは一人のために

LESSON 3
ボール争奪戦“密集プレー”に注目

試合中に発生する密集状態は、基本的に3種類。「ラック」「モール」「スクラム」と呼ばれるものだ。密集プレーもラグビーの重要な場面なので押さえておこう。



モールとラックは、タックルによりボールがルーズ(中立状態)になったとき、両チームがボールを奪い合うことで発生する密集戦!

ラック ruck

地面にあるボールを奪い合うプレー。相手側の密集を押し込めば、地面にあるボールを奪って攻めることができる。



モール maul

相手が抱えているボールを奪うため、両チームが複数人で押し合いをするプレー。相手ゴールの近くで、相手側の密集を押し込んで前進すれば、トライに持ち込める確率が高まる。



スクラム scrum

軽い反則や、密集戦でどちらのボールか分からなくなった際、プレーを再開するために行われる。両チームのフォワード(各8人)が組み合い、力と力の対決でボールを出す。

ラインアウト Line out

ボールが外に出てしまった時のプレー再開には「ラインアウト」という空中戦が行われる。ボールが出た地点を真ん中にして両チームが2列に整列する。ひとりの選手を高く持ち上げて、両チームの間に投げ入れられるボールを空中戦で奪い合う。



元日本代表のトップリーガーに教えてもらおう!

知っておきたい!
ラグビー基本

難しいと思われがちなラグビーのルール。実はとても簡単です。もちろん知識がなくても楽しく観戦できますが、ルールや豆知識を知れば面白さは一層広がります。



ヤマハ発動機ジュビロ
山村亮選手(右)
矢富勇毅選手(左)

LESSON 2
ルールはシンプル

基本ルール

- ボールを前に投げるのはNG (反則: スローフォワード)
- ボールを前に落とすのはNG (反則: ノックオン)
- ボールを持っていない選手へのタックルはNG (反則: ノーボールタックル)
- タックルを受けて倒れた選手はボールを瞬時に離さなければNG (反則: ノットリリースザボール)
- ボールより前にいる選手は、ボールより後方に戻ってからでないとプレーへの参加はNG (反則: オフサイド)

ラグビーの豆知識

Q1 日本代表チームに、海外出身の選手が多いのはなぜ?

他国での代表歴がなく、以下の3つの条件のうち1つでも当てはまれば、国籍を問わず日本代表資格が得られるからだ。

- ・出生地が日本
- ・両親または祖父母のうち1人が日本出身
- ・日本に3年以上継続して居住している (※2020年12月31日からは、5年以上の条件に変わる予定)

海外選手が日本代表になるということは、出身国の代表になる資格を失うことになる。国籍が違うのに、日の丸を背負う選手たちへの敬意と感謝の気持ちも大切!

Q2 観戦席のマナーは?

ラグビーでは観客席もノーサイド。チーム別に区別されておらず、相手チームのすばらしいプレーにも拍手し、ファン同士交流を深めることができる。また、プレー中に笛や太鼓などで応援するのはNG。レフリーの笛の音が聞こえないと、選手にとって危険だからだ。トライ後のコンバージョンキックやペナルティキックのときは、静かにするのがマナー。ゴールが決まった瞬間に静まり返ったスタジアムが大歓声に包まれる。その感動と興奮はスタジアム観戦ならではの醍醐味だ。

Q3 世界中からどれほどの人が集まるの?

2015年のイングランド大会では、全48試合で約247万人のファンが観客席を埋め、史上最多の観客数を記録した。1987年に行われた第1回と前回を比較すると、チケット枚数は60万枚から247万枚、テレビ視聴者数は2.3億人から40億人と、大会を重ねるにつれて規模も人気も拡大している。* アジアでははじめてとなる日本大会には約40万人の来日が予想されている。世界中のラグビー選手とファンが日本に集まる今大会、日本人ならではのおもてなし精神で迎えよう。

*スポーツ庁Web広報マガジンより



LESSON 5
得点方法はトライorゴールキックの2種類

ラグビーの得点は大きく分けて「トライ」と「ゴールキック」の2種。

トライ

相手チームのインゴールにボールを持ち込んで地面に置く(5点)

ゴールキック

ゴールポストの間でクロスバーより上の空間にボールを蹴り通す

- コンバージョンゴール
トライを決めた後、さらにゴールキックで追加点になる (2点)
- ペナルティゴール
相手チームの反則に対して得られるゴールキック (3点)
- ドロップゴール
プレー中、ボールをワンバウンドさせてゴールへ蹴り通す(3点)